

令和5年8月教育委員会議

令和6年度から使用する広島市立小学校用教科用図書採択について

資 料 2

令和5年8月22日

広島市教育委員会様

広島市教科用図書採択審議会

会長 樽谷秀幸

令和6年度使用広島市立義務教育諸学校用教科用図書採択について（答申）

令和5年5月24日付け広市教学指一第32号で諮問されたこのことについて、別紙のとおり
答申します。

令和6年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔国語〕 種目〔国語〕

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [国 語] 種目 [国 語]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、思考力・判断力・表現力を高めるために、指導事項の明確化、指導と評価の一体化を意識し、言語活動の充実に重点をおいた授業改善に取り組んだことにより、令和4年度全国学力・学習状況調査において、「話すこと・聞くこと」(平均正答率66.9%、全国平均65.6%)、「書くこと」(平均正答率51.2%、全国平均48.5%)、「読むこと」(平均正答率69.4%、全国平均66.6%)の全領域において概ね学力が定着している結果となった。
- しかしながら、思考力、判断力、表現力等「書くこと」については、平均正答率が51.2%(令和3年度平均正答率63.0%)であり、定着が図られていない児童が一定数いることが明らかになった。目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、目的や意図に応じて必要な情報を選び出して整理したり、関連付けたりしながら、自分の考えを明確にして表現することなどにも課題が見られる。また、身に付けた言葉の力を実生活で生かすことが難しい状況がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 単元の目標及びまとめの示し方 ② 言葉の特徴や使い方に関する事項 ③ 情報の扱い方に関する事項
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 学習過程の示し方 ⑤ 他教科との関連や日常生活へのつながりのもたせ方
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 年間の学習内容の見通しのもたせ方 ⑦ 単元や資料等の配列と分量
<内容の表現・表記>	⑧ 巻末資料の示し方 ⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫
<言語活動の充実>	⑩ ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

3 各教科書の特徴

1 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭に、単元名とともに、目標とする力を「言葉の力」として示している。また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」では単元の始めに、「読むこと」では単元末の学習の手引きに、単元の目標を、目標とする力と関連させて示している。
- 単元末に、目標とする力を身に付けるためのポイントを「言葉の力」として、図とともに簡条書きで示している。

視点② 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 言葉の特徴やきまりに関する小単元があり、「言葉」「漢字を使おう」「言葉相談室」として示している。
- 言葉の特徴やきまりに関する小単元の配列を巻末に示している。

視点③ 情報の扱い方に関する事項

- 2～6年で「情報のとびら」という教材を「読むこと」と「書くこと」の単元間に年間3か所配置している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 学習過程の示し方

- 2～6年は、巻頭に「国語の学習の進め方」を示している。
- 1年は、下巻から「とりくむ」「ふりかえる」の2つのステップで学習過程を示している。2～6年は「見通す」「取り組む」「ふり返る」の3つのステップで学習過程を示している。また、「取り組む」の中に、番号を付して学習活動を示している。さらに、「思い出そう」として既習学習との関連を示している。
- 2～6年は単元冒頭に「学習の流れ」を示すとともに、「読むこと」の単元においては、単元末に、同じ学習過程で学習の手引きを示している。

視点⑤ 他教科との関連や日常生活へのつながりのもたせ方

- 2～6年は単元末の「生かそう」で、身に付けた力の活用場面を示している。
- 1・2年は生活科との関連や日常生活へつながりをもたせた単元を設定している。
- 単元末に関連図書を紹介している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 年間の学習内容の見通しのもたせ方

- 2～6年は、巻頭の「言葉の力を集めよう」に、1年間の学習を見通し、単元名や教材名とともに目標とする力を、ロードマップで示している。また、巻末には折り込みで、上段に各領域等の目標とする力と単元名を示し、下段には、前学年の目標とする力と単元名を示している。

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 1～4年は上下巻の2冊、5、6年は年間1冊で構成されている。
1年 上巻：144ページ 下巻：172ページ 2年 上巻：160ページ 下巻：168ページ
3年 上巻：168ページ 下巻：170ページ 4年 上巻：168ページ 下巻：160ページ
5年 296ページ 6年 296ページ
- 各学年に領域をまたがった複合単元がある。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 巻末資料の示し方

- 「学習で使う言葉」、「〇年生で学習する言葉の力」(1・2年)、「言葉の力のつながり」(3～6年)、デジタル資料の活用、新出・既習漢字を掲載している。
- 各学年の「言葉の広場」に、学年に応じた語彙をまとまりごとに掲載している。
- 3～6年はローマ字表、3年下巻に点字と手話の資料を掲載している。
- 並行読書、発展読書に活用する物語文や説明文を掲載している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 1・2年は、上下巻とも年間を通じて分かち書きで書かれている。

5 言語活動の充実

視点⑩ ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元末に言語活動を示している。
「ごんぎつね」(4年) 人物の気持ちの変化を伝え合う活動を設定している。
「大造じいさんとがん」(5年) 人物像について考えたことを伝え合う活動を設定している。

1 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭に、単元名を示している。「読むこと」においては、単元冒頭及び単元末の学習の手引きに、単元名を示している。
- 単元途中や単元末に、目標とする力を身に付けるためのポイントを「ここがだいじ」として、短い文章で示している。

視点② 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 言葉の特徴やきまりに関する小単元があり、「言葉の広場」「漢字の広場」として示している。
- 言葉の特徴やきまりに関する小単元の配列を目次に示している。

視点③ 情報の扱い方に関する事項

- 1年下巻～6年の巻末付録に「情報のまとめ」として1ページで示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 学習過程の示し方

- 1年下巻から、「見通しをもとう」から始まり、領域別に4から5つのステップで進めた後、「ふり返ろう」という学習過程を示している。また、領域別のステップを示すとともに、番号を付して学習活動を示している。
(領域別のステップ)
【話すこと・聞くこと】「決めよう・集めよう」「組み立てよう」「話そう・聞こう」「伝え合おう」
【書くこと】「決めよう・集めよう」「組み立てよう」「書こう」「読み返そう」「伝え合おう」
【読むこと】「たしかめよう」「くわしくよもう」「まとめよう」「つたえあおう」
- 1年下巻～6年は、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の単元冒頭に「学習の進め方」を示すとともに、「読むこと」の単元においては、単元末に、学習の手引きを示している。

視点⑤ 他教科との関連や日常生活へのつながりのもたせ方

- 1年生下巻から巻頭に、身に付けた力を生かす実生活の場面を示している。
- 1・2年は生活科との関連や日常生活へつながりをもたせた単元を設定している。
- 単元末に関連図書を紹介している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 年間の学習内容の見通しのもたせ方

- 1年下巻～6年は、巻頭の「〇年生で学ぶこと」に、1年間の学習を見通し、各領域等の単元名や教材名とともに目標とする力を示している。

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 全学年上下巻の2冊で構成されている。
1年 上巻：135ページ 下巻：175ページ 2年 上巻：163ページ 下巻：167ページ
3年 上巻：163ページ 下巻：159ページ 4年 上巻：175ページ 下巻：169ページ
5年 上巻：159ページ 下巻：183ページ 6年 上巻：159ページ 下巻：167ページ
- 各学年に領域をまたがった複合単元がある。
- 3～6年の上巻では、説明文の1単元において、「学習に生かそう」と示し、2教材構成としている。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 巻末資料の示し方

- 「学ぶときに使う言葉」、「情報のまとめ」、「『大事な言い方』を確かめよう」、「『ここが大事』のまとめ」、新出・既習漢字を掲載している。
- 各学年の「言葉の木」に、学年に応じた語彙をまとめごとに掲載している。
- 手紙の書き方、電子メールの使い方、漢字辞典の使い方など、各学年で身に付けることを掲載している。
- 「〇年生で読みたい本」に、表紙の写真と紹介文を付して本の紹介をしている。
- 並行読書、発展読書に活用する物語文や説明文を掲載している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 領域別に色分けをしている。
- 1・2年は、上巻途中まで分ち書きで書かれている。

5 言語活動の充実

視点⑩ ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元末に言語活動を示している。
「ごんぎつね」（4年）登場人物の気持ちの変化を考えて日記を書く活動を設定している。
「大造じいさんとがん」（5年）物語の山場を見つけ、心に残ったことを伝え合う活動を設定している。

1 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭に、単元名を示している。「話すこと・聞くこと」、「書くこと」では単元の始めに、「読むこと」では単元末の学習の手引きに、単元の目標とともに目標を達成するためのポイントを、目標とする力と関連させて示している。
- 単元末に目標とする力を身に付けるためのポイントを「たいせつ」として、箇条書きで示している。

視点② 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 言葉の特徴やきまりに関する小単元があり、「言葉の使い方」「漢字の広場」として示している。
- 言葉の特徴やきまりに関する小単元の配列を目次に示している。

視点③ 情報の扱い方に関する事項

- 2～6年は、「情報」という教材を、年間2か所配置している。
- 2～6年の巻末折り込みに「図を使って考えよう」として情報の扱い方に関するページを設けている。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 学習過程の示し方

- 2～6年は、巻頭に「国語の学びを見わたそう」の中に「どうやって学んでいくのかな」として、学習の進め方を示している。
- 1年は、上巻終わりの【読むこと】の単元から、単元末に「がくしゅう」「ふりかえろう」の2つのステップで学習過程を示している。2～6年は「見通しをもとう」から始まり、領域別に4つのステップに進めた後、「ふりかえろう」という学習過程を示している。また、領域別のステップを示すとともに、番号を付して学習活動を示している。さらに、「確かめよう」として既習学習との関連を示している。

(領域別のステップ)

【話すこと・聞くこと】「決めよう・集めよう」「準備しよう」「話そう・聞こう」「つなげよう」

【書くこと】「決めよう・集めよう」「組み立てよう」「書こう」「つなげよう」

【読むこと】「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」

- 2～6年は、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の単元冒頭に学習の進め方を示すとともに、「読むこと」の単元においては、単元末に、学習の手引きを示している。
- 2～6年は「見通しをもとう」の中に、「問いをもとう」「目標」を設定している。

視点⑤ 他教科との関連や日常生活へのつながりのもたせ方

- 2～6年は単元末の「いかそう」で、身に付けた力の活用場面を示している。
- 1・2年は生活科との関連や日常生活へつながりをもたせた単元を設定している。
- 単元末に関連図書を紹介している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 年間の学習内容の見通しのもたせ方

- 2～6年は、巻頭の「〇年生で学ぶこと」に、1年間の学習を見通し、目標とする力を各領域等の教材名とともに上段に示している。下段には、前学年の学習のポイントを、各領域等の学習過程に沿って示している。
- 巻頭に1年間ですることができるようにしたいことや、楽しい学習を記入する欄を設けている。また、巻末に1年間を振り返って、身に付いた力について記入する欄を設けている。

視点⑦ 単元や資料等の配列と分量

- 1～4年は上下巻の2冊、5、6年は年間1冊で構成されている。
 1年 上巻：132ページ 下巻：140ページ 2年 上巻：164ページ 下巻：168ページ
 3年 上巻：164ページ 下巻：168ページ 4年 上巻：160ページ 下巻：176ページ
 5年 294ページ 6年 312ページ
- 各学年に領域をまたがった複合単元がある。
- 3～6年では、説明文の1単元において、「練習」教材を設けた2教材構成としている。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 巻末資料の示し方

- 「『たいせつ』のまとめ」、「伝え合うための言葉」、「学習に用いる言葉」、「図を使って考えよう」、新出・既習漢字を掲載している。
- 1年下巻から、巻末折り込みの「言葉のたから箱」に、学年に応じた語彙をまとまりごとに掲載している。
- 4年上巻はローマ字表、5年は点字と手話の資料を掲載している。
- 原稿用紙の使い方、手紙の書き方、インタビューの仕方など、各学年で身に付けることを掲載している。
- 「本の世界を広げよう」に、表紙の写真と紹介文を付して本の紹介をしている。
- 並行読書、発展読書に活用する物語文や説明文を掲載している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 領域別に色分けをしている。
- 1年上下巻、2年上巻まで分かち書きで書かれている。

5 言語活動の充実

視点⑩ ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元末に言語活動を示している。
 「ごんぎつね」（4年）気持ちの変化を捉えて物語の結末についての感想を書く活動を設定している。
 「大造じいさんとがん」（5年）
 登場人物の心情の移り変わりを捉えて読み、物語の魅力をまとめて伝え合う活動を設定している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが
ら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、目的や意図に応じて必要な情報を選び出し
て整理したり、関連付けたりしながら、自分の考えを明確にして表現すること」に対応する各教科書の特
徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和6年度から使用する小学校用教科用図
書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 巻頭に国語科の学習の進め方を示すとともに、各単元では、学習過程を「見通しをもとう」と「ふりかえろう」の間に領域別に学習のステップを設けて示している。さらに、見通しをもつ学習において、「問いをもとう」と「目標」を設定し、児童が「問い」から「目標」をもち、課題解決に向かうことができるようにしている。
- ・ 巻頭に、領域別に1年間の学習内容と目標とする力を示すとともに、前学年の学習のポイントを関連させて示している。また、巻頭に1年間ですることができるようになりたいことや楽しみな学習を記入する欄、巻末に1年間を振り返って身に付いた力について記入する欄が設けられており、年間を通して身に付ける力を児童と教員が意識できるようにするとともに、児童がそれらを振り返り、身に付いた力を自覚することができるようにしている。
- ・ 2～6年は、情報の扱い方に関する教材を年間2か所配置するとともに、巻末折り込みに「図を使って考えよう」というページを設けており、情報を選び出して整理し関連付ける際に役立てたり、他教科等の学習においても活用したりすることができるようにしている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 巻頭に国語の学習の進め方を示すとともに、各単元では、学習過程を「見通す」「取り組む」「振り返る」と示しており、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにしている。
- ・ 巻頭に、1年間の学習内容と目標とする力を、ロードマップで示している。また、巻末に折り込みで、領域別に1年間の学習内容と目標とする力を示すとともに、前学年の目標とする力を関連させて示している。
- ・ 2～6年は、情報の扱い方に関する教材を「読むこと」と「書くこと」の単元間に年間3か所配置し、説明的な文章を読んで身に付けたことを生かして書く学習となるよう、情報の扱い方に関する知識・技能を活用できるようにしている。

令和6年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔国語〕 種目〔書写〕

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [国 語] 種目 [書 写]

1 本市の実態や児童の状況

- 年賀状や手紙等を書く機会が減少し、日常生活の中で文字を書く場面が減ってきている。そこで、本市では、伝統と文化に触れる機会をもつことができるよう、文化の祭典「展示の部（書写）」や、小学校教育研究会国語科部会主催の「書きぞめ会」に取り組んでいる。
- 入学前に誤った筆記具の持ち方や姿勢等を習得している児童が多く、限られた授業時間の中で、筆記具の持ち方や姿勢等の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させることや、学習内容を各教科の活動に生かすことが難しい状況にある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 学習内容の定着のための工夫 ② 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方の示し方 ③ 伝統と文化に関する内容の記述
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 興味・関心を高める工夫 ⑤ 単元のめあてと振り返りの示し方
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 単元や資料等の配列と分量
＜内容の表現・表記＞	⑦ 挿絵や写真等の活用 ⑧ 目次や巻末資料の示し方 ⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑩ 他教科や日常生活に生かす言語活動の工夫

3 各教科書の特徴

1 基礎・基本の定着

視点① 学習内容の定着のための工夫

- 2～6年に学習の手順「書写の学び方」を示している。
- 「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「ふり返ろう」「生活に広げよう」という学習過程に沿って硬筆、毛筆、硬筆の順に学習過程を進めている。
- 3～6年は、硬筆の練習用のマス（行）を設けている。
- 筆圧・穂先の動きなどを朱墨とキャラクターで示している。
- 2～6年は、学習のポイントを「書写のかぎ」として示している。

視点② 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方の示し方

- 全学年に、書く姿勢と筆記具の持ち方を示している。3年以上の学年は、用具の置き方と扱い方を示しており、左手で書く場合の用具の置き方を写真で示している。
1・2年は、左手で書く場合の鉛筆の持ち方について写真で示している。
- 全学年に姿勢を整える合言葉「べた びん とん」を示している。

視点③ 伝統と文化に関する内容の記述

- 2年「いろは歌」、3年「俳句」、4年「百人一首」、5年「古文」、6年「漢詩」「漢文」をなぞり書きするページを設けている。
- 全学年の「書きぞめ」の単元で、由来・歴史などを説明している。
- 2年に鉛筆の作り方を掲載している。
- 3年に筆・和紙・硯・墨の作り方を紹介するとともに、熊野町の筆職人へのインタビューを掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を高める工夫

- 全学年同一キャラクターが会話形式で学習のポイントを示している。
- 5年は様々な筆記具を紹介するとともに使用例を示している。
- 6年は文字の歴史を紹介している。

視点⑤ 単元のめあてと振り返りの示し方

- 全学年、めあてを示している。
- 「ふり返ろう」のコーナーに「考えた」「分かった」「書けた」と示し、○を付ける欄を設けている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元や資料等の配列と分量

- 単元数
1年：26単元 2年：20単元 3年：16単元
4年：14単元 5年：12単元 6年：12単元
- ページ数
1年：49ページ 2年：45ページ 3年：57ページ
4年：53ページ 5年：53ページ 6年：53ページ

4 内容の表現・表記

視点⑦ 挿絵や写真等の活用

- 「とめ」「はらい」などを、1・2年では、動物の動きを表したイラストで示している。
- 3年からは、マークで筆の穂先を示している。

視点⑧ 目次や巻末資料の示し方

- 目次を、1年は裏表紙、2～6年は巻頭に掲載している。
- 目次に、学習事項をインデックスの形で示している。また、各教科や日常生活に生かす項目を「生活に広げよう」「学びを生かそう」「文字といっしょに」と示している。
- 巻末に、学年に応じて、ひらがな、かたかな、ローマ字の表、前学年までに習った漢字、当該学年で習う漢字などを示している。
- 1年の巻末に「一年生で学習すること」、2～6年の巻末に、当該学年までの「学習すること」を「書写のかぎ」としてまとめて示している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 1年「ひつじゅんのきまりを見つけよう」というページでは、筆順を示す際、1画目は赤、2画目は青、3画目は緑で示している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 他教科や日常生活に生かす言語活動の工夫

- 各学年の「生活に広げよう」や「学びを生かそう」のコーナーに、連絡帳や絵日記、観察カードや実験記録の書き方、原稿用紙の使い方、手紙の形式、はがきや封筒の書き方、ノート、ポスター、リーフレット、新聞、カードや寄せ書き、お礼の手紙、メモ等の書き方などを掲載している。
- 2～6年は、学習したことを生かす時に関連する内容を、「書写のかぎ」として箇条書きで示したり、関連するページには、「書写のかぎ」を生かして書こう」「どのように生かしたか話し合おう」として、学び方を示したりしている。
- 他教科及び総合的な学習の時間と関連する箇所にリンクマークと教科等名を付している。

1 基礎・基本の定着

視点① 学習内容の定着のための工夫

- 2～6年に学習の手順「学習の進め方」を示している。
- 「つかむ・考える」「書く・確かめる」「ふり返る」「生かす・広げる」の学習過程に沿って、硬筆、毛筆、硬筆の順に学習過程を進めている。
- 3～6年は、硬筆の練習用のマス（行）を設けている。
- 筆圧・穂先の動きなどを朱墨で示している。

視点② 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方の示し方

- 全学年に、書く姿勢と筆記具の持ち方を示している。3年以上の学年は、用具の置き方と扱い方を示しており、左手で書く場合の用具の置き方を写真で示している。
- 1・2年は、左手で書く場合の鉛筆の持ち方についてイラストと写真で示している。
- 全学年に姿勢を整える合言葉「こしぴん 足ぺた ぐう一つ」を示している。

視点③ 伝統と文化に関する内容の記述

- 3年「俳句」、4年「短歌」、5年「古文」、6年「古文」を掲載している。
- 3・4・6年の「書きぞめ」の単元で、由来・歴史を説明している。
- 3年に筆の作り方を掲載している。6年に紙・硯・墨の作り方を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を高める工夫

- 全学年同一キャラクターが会話形式で学習のポイントを示している。
- 5年は様々な筆記具を紹介するとともに使用例を示している。
- 6年は文字の歴史を紹介している。

視点⑤ 単元のみあてと振り返りの示し方

- 全学年、めあてを示している。
- 「ふり返ろう」のコーナーに3段階で自己評価をする欄を設けている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元や資料等の配列と分量

- 単元数
1年：25単元 2年：18単元 3年：18単元
4年：18単元 5年：15単元 6年：13単元
- ページ数
1年：49ページ 2年：41ページ 3年：61ページ
4年：61ページ 5年：53ページ 6年：53ページ

4 内容の表現・表記

視点⑦ 挿絵や写真等の活用

- 「とめ」「はらい」などを、1～4年では、動物の動きを表したイラストで示している。
- 3年からは、マークで筆の穂先を示している。

視点⑧ 目次や巻末資料の示し方

- 目次を、1年は裏表紙、2～6年は巻頭に掲載している。
- 目次に、書写で学習した内容を、各教科や日常生活に生かすことをねらいとした教材には「レッツ・トライ」と示している。また、目次と同じページに「〇年生で学習すること」と、他教科や生活に生かす項目を示している。
- 巻末に、学年に応じて、ひらがな、かたかな、前学年までに習った漢字、当該学年で習う漢字、漢字のなり立ち、横書きの書き方、筆順のきまりなどを示している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 1年「正しいかきじゅんでかこう」というページでは、筆順を示す際、1画目は赤、2画目は青、3画目は緑で示している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 他教科や日常生活に生かす言語活動の工夫

- 各学年の「レッツ・トライ」や「知っておこう」のコーナーに、横書きやカード、招待状や本の紹介カード、作品カードの書き方、原稿用紙の使い方、手紙の形式、はがきや封筒の書き方、国語・理科のノート、学級新聞、見学メモやポスター、リーフレット、お礼やお願いの手紙等の書き方などを掲載している。
- 5年の巻頭及び6年の教材に、SDGs との関連を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 学習内容の定着のための工夫

- 3～6年に学習の手順「学習の進め方」を示している。
- 「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という学習過程に沿って毛筆、硬筆の順に学習過程を進めている。
- 3～6年は、硬筆の練習用のマス（行）を設けている。
- 筆圧・穂先の動きなどを朱墨とキャラクターで示している。
- 全学年に、学習のポイントを「たいせつ」として示している。6年は、「書写の言葉」を学習事項別に示している。

視点② 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方の示し方

- 全学年に、書く姿勢と筆記具の持ち方を示している。3年以上の学年は、用具の置き方や扱い方を示しており、左手で書く場合の用具の置き方を写真で示している。
- 全学年に姿勢を整える合言葉「べったん びん ぐう」を示している。

視点③ 伝統と文化に関する内容の記述

- 3年「ことわざ」、4年「俳句」、5年「古文」をなぞり書きするページと、6年「俳句」を書き写すページを設けている。
- 全学年の「書きぞめ」の単元で、由来・歴史などを説明している。
- 2年に鉛筆の秘密、作り方を掲載している。
- 3年に筆、和紙、墨、硯マップを掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を高める工夫

- 全学年キャラクターが体の動きで学習のポイントを示している。
- 5年は様々な筆記具を紹介するとともに使用例を示している。
- 6年は文字の歴史を紹介している。

視点⑤ 単元のめあてと振り返りの示し方

- 全学年、めあてを示している。
- 1年は「できたかな」、2年は「ふりかえろう」に丸をなぞる欄を、3～6年は「ねらい」のコーナーにチェックを付ける欄を設けている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元や資料等の配列と分量

- 単元数
1年：22単元 2年：20単元 3年：13単元
4年：11単元 5年：13単元 6年：11単元
- ページ数
1年：49ページ 2年：41ページ 3年：65ページ
4年：53ページ 5年：49ページ 6年：57ページ

4 内容の表現・表記

視点⑦ 挿絵や写真等の活用

- 「とめ」「はらい」などを、1～3年と5・6年で、動物の動きを表したイラストで示している。
- 3年からは、マークで筆の穂先を示している。

視点⑧ 目次や巻末資料の示し方

- 目次を、1年は裏表紙、2～6年は巻頭に掲載している。
- 目次に、各教科に関する項目を教科名で示している。
- 巻末に、学年に応じて、ひらがな、かたかな、ローマ字の表、前学年までに習った漢字、当該学年で習う漢字などを示している。
- 2～6年の巻末に、当該学年の大切なことを、「〇年生のまとめ」としてまとめて示している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 1年「かきじゅんのきまりをおぼえよう」というページでは、筆順を示す際、1画目は赤、2画目は青、3画目は黄色で示している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 他教科や日常生活に生かす言語活動の工夫

- 各学年の「書写広げたい」のコーナーに、教科名を示すとともに、横書きの書き方、連絡帳や絵日記、観察カードの書き方、原稿用紙の使い方、手紙の形式、はがきや封筒の書き方、ローマ字、インタビューメモや英語、リーフレットやポスター等の書き方等を掲載している。
- 6年には、「書写ブック」に全学年で学んだことがどのような場面で活用できるか、ポイントとともに示している。
- 3～6年の裏表紙にはSDGsのコーナー、2・3年にはSDGsについて記載したページを設けるとともに、4年に「SDGsブック」として、4ページ分の特集を設けている。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「筆記具の持ち方や姿勢等の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させることや、学習内容を各教科の活動に生かすこと」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和6年度から使用する小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「ふり返ろう」「生活に広げよう」という学習過程に沿って、硬筆、毛筆、そして、硬筆の順に学習を進めており、硬筆と毛筆を関連させた指導を行うことができるようにしている。さらに、「生かそう」では、学んだことを他の文字に生かして書くことを促しており、学習内容の定着を図ることができるようにしている。
- ・ 全学年に書く姿勢や筆記具の持ち方、3年以上に右手と左手で書く場合の用具の置き方と扱い方について示している。さらに、1・2年では、左手で書く場合の鉛筆の持ち方を、児童が手を重ねて確認できるように写真で示しており、教科書を参考にして、書く姿勢や筆記具の持ち方を身に付けることができるようにしている。
- ・ 文字を書く時のポイントを「書写のかぎ」と称して、関連するページに短い文で示したり、「書写のかぎ」を生かした学び方を示したりしており、書写で他の文字を学習する時に生かすことができるようにしている。さらに、他教科等に関連する箇所に、リンクマークと教科等名を付しており、身に付けたことを他教科等の学習に生かすことを促している。

意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 「つかむ・考える」「書く・確かめる」「ふり返る」「生かす・広げる」という学習過程を示し、毛筆教材の前後に、硬筆で書く「ためし書き」と「まとめ書き」を設けており、硬筆と毛筆を関連させた指導を行い、学習内容の定着を図ることができるようにしている。
- ・ 全学年に書く姿勢や筆記具の持ち方、3年以上に右手と左手で書く場合の用具の置き方と扱い方について示している。さらに、1・2年では、左手で書く場合の鉛筆の持ち方をイラストと写真で示している。